

(様式2)

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果（さくら）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100010		
法人名	社会福祉法人 豊寿会		
事業所名	グループホームながば		
所在地	新潟市北区長場字土居下1282-1		
自己評価作成日	平成29年 8月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、入居者様が快適に過ごして頂けるよう取り組んでおります。年間行事など出来るだけ実現できるよう職員一同心掛けております。時間に捉われる事なく自由な時間を活用して楽しい表情が多々見られるよう今後も取り組んでいきたいと思っております。また、ご家族様や地域の方々にご協力頂き、職員全員が入居者様に「安心、安全、あったかい心」で支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、郊外の広い田園地帯の一角に位置している。敷地内には平屋建てのグループホーム2ユニット、デイサービスセンター、法人本部があり、法人全体として互いに目の行き届く距離にあるため、理事はいつでも気軽に事業所を訪れて利用者と一緒にレクリエーションを楽しんでいっている。

平成18年にうぐいすユニット、平成24年にさくらユニットが開設というタイムラグがあるため、壁紙の色彩や床材、採光などに違いはあるが、設え自体はほとんど同じである。先に開設したうぐいすユニットの利用者には重度化が進んでおり、職員の介護負担も大きくなっている。そんな中で職員は理念である「安心、安全、あったかい心」で常に笑顔を意識して日々のケアに取り組んでいる。

管理者の交代があったが、今まで取り組めなかった課題についても真摯に受け止め、一つひとつ改善していこうとする前向きな姿勢が見られる。

職員同士のチームワークも良く、互いに指摘しあえる職場環境であり、今後も利用者本位の運営が展開されることが期待される。

自己評価および外部評価結果（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全・安心・あったかい心」の理念を全職員が共有し、理解して実践している。	法人理念である「安全・安心・あったかい心」は職員全体に良く浸透しており、事業所のケア方針である「笑顔・心愛・尊重」とも併せて日常のケアに活かされている。会議の中で定期的に理念についての振り返りを行い共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、コミュニティイベントに参加している。地域の方にも豊寿会祭に参加して頂き、地域の一員として交流している。	法人全体で行う「豊寿会祭り」の際は、案内を近隣に配布してたくさんの方に来てもらえるよう取り組んでいる。今後は事業所単独の夏祭りも計画し、地域との交流を進めたいと考えている。近くの保育園との交流や、コミュニティセンターのイベントなどにも積極的に出掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽に事業所に立ち寄る事ができる機会がほとんどない為、今後は、定期的にイベントを開いて地域の皆さんと交流を図れるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し情報を共有している。	会議は、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、他法人のグループホーム管理者の参加で開催されている。委員の同法人職員から防災訓練についての意見があり、今まで行ってこなかった水害時の対応について、今後訓練を実施する予定となった。	昨年度の外部評価以降の取組み状況が確認できなかった。だが、利用者や家族からも意見をもらい運営に活かせるような話し合いの機会となるよう、また、利用者や家族が会議に参加できない場合は会議の内容を周知する方法も含めて、運営推進会議のあり方について検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、地域ケア会議等に参加している。市の方からはメールなどでサービス制度について情報が来ている。事故報告時は、市へ連絡する等の対応をしている。	市の担当者とは日常的にメールや電話でやり取りしており、顔の見える関係が築かれている。また、年に2～3回開催される地域ケア会議や市主催の研修会などにも積極的に参加し、常に連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は玄関を施錠するが、それ以外は施錠を含めて拘束しないケアを行っている。	マニュアルの整備および研修の実施により、身体拘束をしないケアの実践に努めている。基本的には身体拘束は絶対にしないことを方針にしているが、利用者の生命に関わる事案が生じた場合には、利用者本位に検討を進めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の内部研修を開催し、高齢者虐待法を学んではいるが、入社して間もない職員は制度についてあまり理解できていない。	虐待防止には、研修講師に外部から著名な講師を招くなど力を入れている。管理者は、職員の不適切なケアや言動が見受けられた場合は個別に指導を行うが、職員同士でも互いに指摘しあえる職場環境もできている。定期的に個人面談を行うなど、職員のストレスにも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居していた利用者様の中に、成年後見制度を利用していた利用者様がいた為、日常生活自立支援事業や成年後見制度等の理解は必要と思われるので、外部研修等で学ぶ機会を設けて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者からご家族へ契約内容を説明し、不安や疑問等ないか確認しながら契約を行い理解し納得して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用アンケートを実施し、ご家族から得られた意見を公表している。また、その意見を日々のサービスに活かしている。	年に1回、法人本部から家族向けにアンケートが發送されている。集計結果については事業所内に掲示している。利用者の意見や要望は、担当職員が中心となって、日々の生活の中で聴き取りを行っている。	毎年法人本部でアンケートを実施しているが、事業所でも独自にアンケートを実施したり、家族の来訪時に聞き取りを行うなど、より具体的に聴くことで事業所独特のニーズの顕在化が図られるのではないだろうか。現場職員の気づきや意見を活かしながらアンケートの回答もサービス向上に反映させる取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談等で職員から意見を聞き、それを反映している。現場の疑問等は皆で考え、全体会議等で議題にして検討する機会を設けている	年に2回、管理者及び法人の幹部職員と個別面談をする機会がある。また、毎月1回の全体会議には、可能な限り職員は全員参加し、運営に関することや収支についての話をしたり、職員が質疑できる場も設けられている。日々の業務の中でも、連絡帳を活用して意見や気づきを自由に記載し共有が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表での面談を通じて、職員から意見を聞き法人の規定を考慮しながら、働きやすい職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、勉強会を行っているが、勤務の関係で毎回、全員が参加できていない。人事考課表で職員一人ひとりの力量を把握し、個々に合わせた目標をクリアできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進会議で他事業所の会議に出席したり、来て頂いたりして交流を図っている。会議の中で意見交換させて頂いた内容等は、サービスの質の向上に向けた取り組みに活用している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを大切にし、本人の思っている事や表情、仕草等から読み取り信頼関係を築いている。また、本人の訴えに耳を傾け、希望をできるだけ叶えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えにも耳を傾け、不安等を相談して頂けるような関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の意向をできるだけ汲み取り、介護支援専門員、他職員と相談しながら本人の望んでいるサービス等が受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員ともに日常生活を営んでいるという気持ちを持ち、一緒にできる事は協力しながら家事などを進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診はご家族様に行って頂いたり、問題等発生した場合は極力ご家族に来所頂き、一緒にご本人を支えて行けるよう努めている。	利用者と家族が関わる時間をより作っていきたいとの思いから、受診の家族付添いはもとより、法人の祭りのほかに事業所独自の祭りを行う予定である。また、個別の外出支援等にも家族から協力してもらい取り組みを始めたところであり、行事やイベントの機会を利用し、利用者と家族とのつながりが途切れないよう支援している。	今後作成する予定である「お便り」や、利用者個々の事業所での様子を書いた手紙を送付するなど利用者の状況を共有しながら、家族と協働して利用者を支えていくことを期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達等が気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。	ほとんどの利用者が近隣の地域から入居されているため、これまでの馴染みの関係は途切れず継続できている。行きつけの美容院に毛染めをしに出掛けたり、定期的に遠方より友人が訪ねてくるなど、個々の馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格等を理解し、お互いが無理せず関わって頂けるよう配席を考えたり、コミュニケーションの仲介をするよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も本人の状態は気になるが、フォローできていない。入院、入所となるとなかなか踏み出すことが難しい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から希望、意向をくみ取るようにしている。職員全員で叶えられるよう努力している。	計画作成担当者を中心に担当職員も加わって聴き取りを進めており、センター方式のアセスメントシートを活用して聴き取りの中で思いや意向の把握に努めている。6ヶ月毎の短い間隔で更新することで、その時々を利用者の状況を反映させている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と会話したり、ご家族から聞いたりして今までの生活と大きく変わらないよう、努めている。	入居前に関わっていたサービス事業所や、福祉・医療の関係者および家族からも情報収集を行い、把握に努めている。得られた情報はフェイスシートに落とし込んで集約している。入居後に知り得た事柄については、連絡帳への記載や直接フェイスシートに追記することで職員間での共有を図っている。	これまでの暮らしを把握するには、話を聞くだけでなく、これまでの生活環境を実際に見ることで、生活習慣や馴染みの暮らし方の手がかりを拾うこともでき、暮らしの全体像が見えてくる場合があるのではないだろうか。その人の暮らしの全体像を把握できる情報収集の在り方を検討することを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間に捉われず、個々のペースに合わせて過ごして頂き、その中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、全職員が必要な関係者と話し合いながら、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映している。	介護計画の実施状況のチェックは毎日専用シートに記録し、モニタリングは毎月実施して6ヶ月毎に更新している。本人や家族には可能な限り参画してもらうよう促しており、計画の説明時には同席のもとで署名してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のちょっとした気づきなど、業務日誌やケース記録等に記録を残し、全職員が情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1度の事業部推進会議、ユニット会議を行い、現在のサービスの問題点や課題を見出し、より良いサービスが行われるように話し合いをして実践に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域ケア会議などで地域の情報収集をして把握し、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望する所に受診出来るよう、家族等と協力しながら支援している。他、緊急時は提携先の病院などを中心に了解のもと、受診対応している。	入居前からのかかりつけ医への受診と、家族による受診対応を基本としているが、利便性から事業所に定期的に訪問診療に来る協力医院にほとんどの利用者が変更している。受診の際の医療機関とのやりとりは、家族を通して行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を常に観察して判断に困ったり、不明な所は法人内の看護師に報告し直接診てもらっている。必要であれば、早急に受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している入居者の状態を電話や面会で把握するようにしている。ケースワーカーと連絡を取り、入院時の状態報告をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変わって来ている事を事前に伝え家族と話し合い、本人、家族が納得できる対応を心掛けている。	重度化および終末期の方針は明文化されており、入居時に利用者、家族に説明している。事業所の方針として看取りは行わないことを全職員にも周知している。また、入退きの基準がはっきりと示されているため、基準に該当した時点で利用者、家族、関係者と話し合いを行い、意向の確認を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの使用など法人内の研修等で定期的に学んでいる。またマニュアルを見て実践力を身に付けている。	毎年、救急法の研修会を実施しており、AEDの取り扱い方法等についても学んでいる。マニュアルには急変、事故など、ケース毎に緊急時の対応が分かりやすくまとめられており、有事の際にはすぐに確認して対応できる体制となっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で避難訓練を行い、方法を身に付けている。また、地域の防災訓練に参加させて頂き、協力体制の構築に努めている。	年3回の防災訓練は、消防署の立ち合いのもと、昼夜の火災や地震など考えられる想定で訓練を行っている。運営推進会議での意見により、水害を想定した訓練も近日実施する予定である。毎年行われる地域の防災訓練にも、利用者と職員数名が参加して防災意識を高めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格やプライドを傷つけないような言葉掛けや傾聴を心掛けている。また、日々の暮らしにあってはプライバシーの保護に努めている。	管理者は、常に笑顔で利用者に接するよう職員に伝えており、職員に不適切な言動や態度が見られた場合は個別に指導を行っている。定期的に行われている接遇研修では、外部から専門の講師を招いて指導してもらい、尊厳とプライバシーを尊重したケアにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ入居者の話、言葉を聞くようにし具体的に声掛けを行ったり、表情を観察しながら自己決定をして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースを大切にして、1日を過ごしてもらっている。利用者様の家である為、職員がペースを乱さないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に応じて髪を染めたり、パーマをかけたりしている。自ら衣類を選んで頂く等、その人らしさを大切にしていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭きなど、できることはして頂いている。また、好みに合わせて味付け等を工夫している。	メニューは1ヶ月毎にユニット交互で作成されており、イベントに合わせてたり利用者の希望を取り入れて作られている。また、食事作りから後片付けまで、可能な限り利用者の力を借りながら進められている。食器は利用者個々の馴染みのものを使用し、家庭での食卓の雰囲気を再現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないように工夫したり、自身で食べられない方には介助を行っている。水分は、1日1300～1500mlを目標として、ゼリーなど形を変えたり、嚥下困難な方にはトロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行ったり、介助にて清潔を保持出来るよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめにトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄して頂けるよう支援している。	排泄チェック表を利用して個々の排泄パターンの把握に努めている。また、可能な限りトイレでの排泄を促しており、パットなど排泄用品を効果的に使用しながらオムツに頼らないケアに努めている。夜間もポータブルトイレ等の使用をせず、トイレ誘導を基本とし対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んでいる食品を摂取したり、水分をこまめに摂取するなどして、便秘にならないよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のペースに合わせて入浴して頂きたいと思っているが、職員の都合に合わせてしまっている所がある。また、入浴拒否や外出、受診などで変更する事もある。	週2回、午前中の入浴を基本としている。中には、一人で長時間入浴する方もいるが、一人ひとりが自分のペースで入浴することを支援するように努めている。入浴剤や季節ごとの変わり湯で、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	実施しているアンケートも活用して入浴に対する利用者や家族の意見を聴き、一人ひとりが入浴を楽しめるよう事業所としての入浴支援の方法について職員全体で話し合うことを望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中はできるだけフロアで体操やレクリエーションなど身体を動かして頂き、夜間ぐっすり眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の様子を注意深く見守り、いつもと異なるようなら相談等をして支援している。薬は職員が全て管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	唱歌、カラオケ、散歩、外出、ドライブなど一人ひとりの生活歴を参考に楽しく生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や行事などで外出して頂いている。皆で一緒の場所に行っている事が多いので、今後、個々の希望に沿った所に外出して頂けるよう支援したい。	天気の良い日は近くの公園まで散歩に出かけたり、薬局やスーパーへ個別の買い物に出かけることも多い。季節ごとの花見や外出は、年間の計画を立てて実施している。墓参りや帰宅など個々の希望による外出については、家族の協力を得ながら実現に向けて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かったお金を本人に渡し、使用する事は可能で、希望に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と話がしたい時は電話が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の明るさ、室内の温度調整等、利用者がゆっくり過ごせるよう配慮している。また、季節感を取り入れた物を飾ったり、ホームでの様子を写真掲示している。	フローアは大きな窓に囲まれており、廊下の天井にも随所に小窓があって採光が良く明るい環境である。テーブルや椅子、ソファが適所に置かれ、居心地の良い空間となっている。壁には、外出時や行事の写真を掲示したり、季節感のある飾りで利用者および外来者の目を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとした空間で、思い思いに過ごせるように工夫している。テレビや新聞、雑誌等を見たり利用者同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物などをお持ち頂いている。また、居室の配置を変えるなどして利用者様が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は、担当職員が中心となって利用者の希望を取り入れながら家族の力も借りて、居心地の良い空間づくりをしており、定期的に模様替えを行うようにしている。利用者個々が馴染みの家具や電化製品など自由に持ち込んで、思い思いの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。また、トイレやお風呂等は目印などを付け分かりやすいようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				